



アル事治クカモフヘキ事ナリハ雲御抄用云ノ部ニ
身ニ付事ヲ書載ラレハ人ノ我物ト持タル言葉
ヲトルトカイタリテ云コト知レ地ノ恩財ヲカヌタルトキハ
忽ニ刑アリ人ノ秀逸ヲ盗トルトキハマノアメリ刑ニアル
トイハレモ豈天誅ナラシヤ天地人感和道ナレハ
實ヲモトスツ道ヲ學ブトモカラ人ノ物ヲ掠領シ
タトハレシメ讀タルヨリヨクナリクハトテ神佛ノ冥感
アル手ヤヨクシ此放誡ヲ信仰シコノ罪ヲオラス
ヘカラス

ほくともむ びさけ るん あふろ かりが
つゝ中く 物のあき

此分モ加難詞ナリ何ニ出サレヤワノ子細
ヲ不知由先賢ノ汝汰ナリ

ほく

六百番ある百番廣田社等御念、後成卿或難
之式取之コレ歌ニヨリテ也ヨクハ、ノヒカタキ詞ニ
松古ノ中、分加吟味卒爾ニ不可録出ト也式
ヒトの色ナトイフキトコロ、ほくトラクソノ詮ナカルレ

桃 浮きしあうねきよとくちらへりあうつらふゆりあそ
 川 舟すむねのそねぬらけり程きあはははらうのそ
 川 うけし船はうりもあうらうらあうらあうらあうらあ
 川 舟はうりあうらうの戸明きあうらあうらあうらあ
 川 浪きあうらあうらあうらあうらあうらあうらあ
 川 舟はうらあうらあうらあうらあうらあうらあ
 川 しあうらあうらあうらあうらあうらあうらあ
 川 うらあうらあうらあうらあうらあうらあ

がぶら

六百番御裳濯河衣衣三十五本初合有取捨はく

詞才也

井蛙村云

衣の御府 わが物

京在夢の世詞自他雖北下孫華作打解^{よき}詞性後

順徳院御首

あうらあうらあうらあうらあうらあうらあうらあ

雲花の栞客錦繡山門のあうらあうらあうらあ

常氣物屋の函題見而あうらあうらあ

雷

この春もかたじけなくのちみちをわたりぬれぬ物なり

秀

枝守はしむれば又も花をばしむるのたぬあはれ

夕らりいとくしりして花をばしむるのたぬあはれ

いひつゝもあはれをばしむるのたぬあはれ

枕

ゆりよはる生ぬ物の枝に中はむすのたぬあはれ

枝が本をぬれぬと咲きて花をばしむるのたぬあはれ

いふふちをばしむるのたぬあはれ

天のあはれもかたじけなく花をばしむるのたぬあはれ

白きひかりもかたじけなく花をばしむるのたぬあはれ

ゆりよはる生ぬ物の枝に中はむすのたぬあはれ

其

天に花をばしむるのたぬあはれ

いひつゝもあはれをばしむるのたぬあはれ

夕らりいとくしりして花をばしむるのたぬあはれ

いひつゝもあはれをばしむるのたぬあはれ

ゆりよはる生ぬ物の枝に中はむすのたぬあはれ

いひつゝもあはれをばしむるのたぬあはれ

手の百香歌合春判公極雅主思多あつたは河津舊詠
車津不可麻多所好也後成と雜

河津のキタカニ夜下キコエタラハウレシカル下下下揚屋流ら交
別け河加流河の中去部ニテリハ空の妙ノ趣ト相違如行
ト可思也こそ部向下下下下河名時去院ニ世河
ソハ流シタル人アリタル友ニ我ニ減之流河ノ名ニ載之
ハ宮ナトヲ云タルカトナク

け候に同じク春のヨミタレ秋は河アリク被雅ヲソノテ、春ノ
部ニ此虫載タルナレシステ、此音番、後成と雜去四ノ
申ナリけ河津はく河ニ月ナシ

手集分

わさささささささささささささささささささささささ
ささささささささささささささささささささささ
ささささささささささささささささささささささ
ささささささささささささささささささささささ

あささささささささささささささささささささささ
ささささささささささささささささささささささ
ささささささささささささささささささささささ
ささささささささささささささささささささささ

桃 秀
あささささささささささささささささささささささ
ささささささささささささささささささささささ

あささささささささささささささささささささささ
ささささささささささささささささささささささ

已上八行は後述にせしむる加難字ヲトハ通例アリトモ
本亦不了録中ニ由留書後寫書ニ爲ス此通例也
常後句化題之并風折ニクク加吟味ウヘナラテハ
ヨミカタルヘシスヘテは等ノ詞ヲ小点ノ詞ト云イニシヨリ
小キ点ヲクハハタルト云フニ如クは誠來詞檢古方ニ非テ
詠ニ事道ノ魔性ナリソノ詠奇ノトノハサルニ此ハ
古來ノ法ヲ破ル罪ノカシカタ能ク可惧

先達加難詞

丹桂抄付ノ家道ニ廣義ニ由ルル詞あり感其優
秀ありけりなり或は多程ルルル此ハ多クなり感其詞の
行ハ多クありとも時俗乃まじしよもあつて心々
ら結ぶありとも今乃後世未まきといふ詞也
對テ書りしハ傍註もほやうぬいれしよもあつて
佛ノ戒律も通念もあつては曹の律も押さへて
其源もふゆもあつてあやまりもあつては其のしき
らしよも通解も後付ルル可なり其のしきもあつて
是れハ其のしきもあつて是れハ其のしきもあつて

ちりほしむる

春

まじや霞

金部抄詞ノイリホカノ所ニ被載

石清水若宮御合行ノ事加茂彦彦山丸や彦彦山丸
ノ川上ノゆふたのさうらふの山彦彦山丸のついで
らまゝのいへおのほやまのしんがらふのさうらふ
まよふのたやまのしんがらふのさうらふのさうらふ
とくし上れおのほやまのしんがらふのさうらふのさうらふ
建保二十八年合を野彦彦山丸のついで

婦名何れを

宗号親王ノ高皇原ノ中ノ事也(此)もはむじく身二有
たのけてはしんがらふ高皇原ノ事

けやし字先助のナリ類モユモルヤウニテ不台の上(被制之
由ふ味吉院と直列しこし直代はつたかここニルナリカモカナラス
不可為例

枕 妻のまはらうらふさうらふの海ノ事

浦風おのほやまのしんがらふのさうらふのさうらふ

真 宗乃稱もあつたよまの御乃ららふたはるのさうらふ

科砂より事は尤は詞アしきニテハナシ

ナ 及び此の言もまた此の言はらばんらんなり 水信

去る所の言はらばんらんなり 水信

カ 去る所の言はらばんらんなり 水信

ら 及び此の言もまた此の言はらばんらんなり 水信

かゝるるるる

ハ雲押妙しくも此の言はらばんらんなり 水信

カ 及び此の言もまた此の言はらばんらんなり 水信

カ 及び此の言もまた此の言はらばんらんなり 水信

此の言もまた此の言はらばんらんなり

家その言もまた此の言はらばんらんなり 水信

の言もまた此の言はらばんらんなり 水信

は 及び此の言もまた此の言はらばんらんなり 水信

首一と題ハナケレトモチカク部ノ栞意ノ竹ナト相應ナル事ヲ

サレヨキテ芥つむ事ヲ是タル処一カクテラク処ヲ專ニシテ

優劣ナレ事ヲ意シタルニハ凡テ抑テ損スルナリ末學の言ハコト多

クシテイデシテ何ノ類ニテモ近キ事ヲサレヨキテ又事ヲ

求メテ宜カラサル事ヲは一カクテアケテ是悟セヨトハ優十

ルハニ

けり命終の方通す夢見し由る時其の後に成城

信 けり命のひひひれ垣のりたりとるひひひれと柳

こころらら

井煙抄云

取古名歌句事

廣田社務会

李定

こころららららとる清路しからるるよかちりりり
お涼判なたかともいふらららららららららららら

のころらららららららららららららららららららららら
ゆるららららららららららららららららららららららら
ほのららららららららららららららららららららららら
おらららららららららららららららららららららららら
人らららららららららららららららららららららららら
せらららららららららららららららららららららららら

千載

終因

候らららららららららららららららららららららららら

新古今

あふふ

はらららららららららららららららららららららららら

秀逸の初句を了詳破由を勝つ後文洲物と中古逸代
歌にまふ見

花より下りや

宗号親王と百首の中はあらわし乃花と云ふは終句
つゝまゝに終句下高家と云題を中を付八中と云見

名勝三院と云ルに

名勝三院と云ルに三院と云は載元とてヨル歌名見及

つゝ夜

重出

承和の歌

續古今にいはははまふ今に云ふはあはれはの歌神の
初句と定家は秀逸より終句は是等と後と云一首
眼目たりけは先賢言ひ度ヲ又詠る事ヲ終る事ナリ
承和の歌と云下り初句タルハ

春の朝のけ

并種抄云

一あふけ

押紙云は辰ニシクキヤウニ下モヨクニ羽嚙ト出テアサト
ヨミテトア未口傷ナルモノアサケト云ヨミ作ラキライカ
キニテ作テニアサケトヨミ作ケク作

衣の寄の府の御歌

春の朝のけの朝あけの御歌

東極の朝のけと七文の御歌

よの作実正の字の朝あけ

あけの字の加

けの字の加

須磨の朝あけの御歌

光世御製書入タラテ有る不勘ト云之買云也
河室撰御合カテ補正山書ルモね乃心云云
高麗の朝あけ乃山依成判云長ありて
つりト云云何者云云
山ノ子云云何れ云云
丹波抄新撰云云凡雅集被撰云云
我云云云云何れ云云乃朝あけ
高麗の朝あけ云云云云
不採用云云也

清言の事華舞の羽アラスト名舞の院の御舞

夏

中

被服又出柳の御舞

音

音の事舞の羽アラスト名舞の院の御舞
被服又出柳の御舞
中

桃

山登り舞の中此の事舞の羽アラスト名舞の院の御舞
起り舞の事舞の羽アラスト名舞の院の御舞
桃の事舞の羽アラスト名舞の院の御舞
中

拾遺集子香集名傳名虎集...
か...
か...
か...

夕立雨

昔 空乃...
同上

桃 風...
...
...
拾遺集子香集名傳名虎集...

...

未...
...
...

桃 慈母とてさるる家のりりりるるのつれなきまじりぬを
みみしとてさるる家のりりりるるのつれなきまじりぬを
六 心あはれにさるる家のりりりるるのつれなきまじりぬを
久波のいらいとてさるる家のりりりるるのつれなきまじりぬを
おとろけとてさるる家のりりりるるのつれなきまじりぬを

秋乃あはれけ

去の初あはれけ

月乃あはれけ

割詞あり

月乃あはれけ

ヨメル初を所見

紅葉のあはれけ

井神抄

紅葉のあはれけ
室は百とてさるる家のりりりるるのつれなきまじりぬを
アハレのあはれけ

紅葉のあはれけ

後發 ちうふくの社ねしーくしやうあしりまきん
物とくしーまねのさーくし思ふはあれ物をもく
家集おとくち集のくしーくしとくちのやにあしきん
右家紙あをいしあしきん

信言しあまよき系桃葉の味も花集あしきん

一時の題よあしきん

連命之風とくち集あしきん
しきくむとくち集あしきん
くからしあしきん

後發 ちうふくの社ねしーくしやうあしりまきん

後發 ちうふくの社ねしーくしやうあしりまきん

本杯の声

八重節あしきん
あしきん
拾五 家あしきん
あしきん
あしきん
あしきん
あしきん
あしきん

桃 今あはれを月ふりたりし雲よりよみあはれの声
秀集集五味五陀集二書也

白雲きりり

不昧の院云此河ソノ比派シタ人アリタルニハ義載
減字の詞をニハ載タルハ書ナトラ云タルカ何レヨム
ハアラカレ義也

志の心

不昧の院云志の心ハ書ナラシク又云ヨル(キ)詞ナリ

ヨリテ随分可加吟味ニ被載也

雷の音

不昧の院云キコエリキ河ノ下冷け書ニ被ウレカ
ヨムハカラム

雷の音

制ノ詞ナリ

よしのつとみ

新羅 年々わいの。其の初集のたのひのりふもたふも
口ま かくよのけいしゆのたのひのりふもたふも
聖 思ひやるといふていふていふていふていふていふ
よのけいしゆのたのひのりふもたふも
とうふ文字下将下親兵衛元次阿利ト
雷玉秀来桃葉不味上院集の五書見

雜

やめ垣瀬 ふういん垣瀬のうら

宗号親王の百言中やめ垣瀬のうら
車の上飛石を降いたる垣瀬のうら
のうら心華齋の詞のうら

かみ垣瀬

かみ垣瀬のうら
かみ垣瀬のうら
かみ垣瀬のうら

かみ垣瀬のうら

かみ垣瀬のうら
かみ垣瀬のうら
かみ垣瀬のうら

信持神の元下口と雜

あはれ

日高き中らしくはるをたしとては

死に由らむと雜

吾らにけりては

らにけりては

らにけりては

今さら

同音前中品(の)は

満身は

風乃々々

雲雨抄

あはれ

制詞也

あはれ

舟輕抄に出るに其意難辨歟

新撰 岩向の狂歌は海も雷もくもゆきよらうらなふきり
草 くれねむるきりくもきりくもきりくもきりくもきりくも

山風はくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくも

音 夕ふりくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくも

新初撰、方

右足家公撰入

いんま〜やま〜ら

後 まねくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくも

吹あ〜

八雲御所定家公の志はよらふと吹あ〜

吹あ〜はよらふと吹あ〜はよらふと吹あ〜はよらふと吹あ〜

いほくはよらふと吹あ〜はよらふと吹あ〜はよらふと吹あ〜

枕 吹あ〜はよらふと吹あ〜はよらふと吹あ〜はよらふと吹あ〜

括弧は草書、右は書、右は書、右は書、右は書、右は書、右は書、右は書

吹あ〜

八雲御所定家公の志はよらふと吹あ〜

吹あ〜はよらふと吹あ〜はよらふと吹あ〜はよらふと吹あ〜

此の山ありては山道のたゞの山脈なりとて入道の戸
境の山脈なるをいふもいふもいふもいふもいふも
せの中なるなりとていふもいふもいふもいふもいふも
此の山脈なるをいふもいふもいふもいふもいふも
けを秋とていふもいふもいふもいふもいふもいふも
おるなりとていふもいふもいふもいふもいふもいふも
拾遺愚州集巻之五院集巻之五所見

谷河の山脈

八雲の山脈なるをいふもいふもいふもいふもいふも

谷河の山脈なるをいふもいふもいふもいふもいふも
スレヨク奇所見

大井川波

出所未考也

此の山脈なるをいふもいふもいふもいふもいふも
はあよあよ奇所見

能くの中

宗室の親王なるをいふもいふもいふもいふもいふも

かゝる事は... 桃

新物... 後

天の宮... 者八省定家

三つ

順徳院... 詠

都に海に渡る事なくして
家へ行く事なくして
舟に乗りて海を渡る事なくして
浪に乗りて海を渡る事なくして
舟に乗りて海を渡る事なくして
浪に乗りて海を渡る事なくして
舟に乗りて海を渡る事なくして
浪に乗りて海を渡る事なくして
舟に乗りて海を渡る事なくして
浪に乗りて海を渡る事なくして

舟に乗りて海を渡る事なくして
浪に乗りて海を渡る事なくして
舟に乗りて海を渡る事なくして
浪に乗りて海を渡る事なくして
舟に乗りて海を渡る事なくして
浪に乗りて海を渡る事なくして
舟に乗りて海を渡る事なくして
浪に乗りて海を渡る事なくして
舟に乗りて海を渡る事なくして
浪に乗りて海を渡る事なくして

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written on the left page of the open book. The text is dense and fills most of the page.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written on the right page of the open book. The text is dense and fills most of the page.

〆

出処未考得

Prun

言 花のいろはに花の葉のいろはに花の枝のいろはに花の果のいろはに

桃 花のいろはに花の葉のいろはに花の枝のいろはに花の果のいろはに

花のいろはに花の葉のいろはに花の枝のいろはに花の果のいろはに

花のいろはに花の葉のいろはに花の枝のいろはに花の果のいろはに

花のいろはに花の葉のいろはに花の枝のいろはに花の果のいろはに

〆

出処未考得

ヨメル歌子示見

〆

言 よめ歌子のいろはに花のいろはに花の葉のいろはに花の枝のいろはに

桃 花のいろはに花の葉のいろはに花の枝のいろはに花の果のいろはに

花のいろはに花の葉のいろはに花の枝のいろはに花の果のいろはに

花のいろはに花の葉のいろはに花の枝のいろはに花の果のいろはに

花のいろはに花の葉のいろはに花の枝のいろはに花の果のいろはに

花のいろはに花の葉のいろはに花の枝のいろはに花の果のいろはに

花のいろはに花の葉のいろはに花の枝のいろはに花の果のいろはに

六

海に花をうつすもなほこゝに花ありて花のまはれをわたりて
鳴りて花のわびをいふもこゝろに花のまはれをわたりて
花をうつすもなほこゝろに花ありて花のまはれをわたりて
鳴りて花のわびをいふもこゝろに花のまはれをわたりて
花をうつすもなほこゝろに花ありて花のまはれをわたりて
鳴りて花のわびをいふもこゝろに花のまはれをわたりて
花をうつすもなほこゝろに花ありて花のまはれをわたりて
鳴りて花のわびをいふもこゝろに花のまはれをわたりて
花をうつすもなほこゝろに花ありて花のまはれをわたりて
鳴りて花のわびをいふもこゝろに花のまはれをわたりて

花をうつすもなほこゝろに花ありて花のまはれをわたりて
鳴りて花のわびをいふもこゝろに花のまはれをわたりて
花をうつすもなほこゝろに花ありて花のまはれをわたりて
鳴りて花のわびをいふもこゝろに花のまはれをわたりて
花をうつすもなほこゝろに花ありて花のまはれをわたりて
鳴りて花のわびをいふもこゝろに花のまはれをわたりて
花をうつすもなほこゝろに花ありて花のまはれをわたりて
鳴りて花のわびをいふもこゝろに花のまはれをわたりて
花をうつすもなほこゝろに花ありて花のまはれをわたりて
鳴りて花のわびをいふもこゝろに花のまはれをわたりて

妹乃ほろり〜
咲海と歸のさくらあはれ尾花をまきつゝ
暁半に花のさくら家より花の影を
かゝりてあつた〜
いづれは海を渡るさくら花の影を
わらわは海を渡るさくら花の影を
ゆきとあつた〜
ほろり花のさくらあはれさくらあはれ
さくらあはれさくらあはれ

中

うた

朝のわんきにテハアラシエトエハシキエトテハウチ
のキカタ

か
ほろり
あはれさくらあはれさくらあはれ
あはれさくらあはれさくらあはれ
あはれさくらあはれさくらあはれ

Handwritten text in a cursive script, likely a list or index, with a small character at the top left.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or index, with a small character at the top left.

はつとちあつてつらむるはつとちあつてつらむる
まふとちあつてつらむるはつとちあつてつらむる
まふとちあつてつらむるはつとちあつてつらむる
まふとちあつてつらむるはつとちあつてつらむる

郭 秋とてしりあつてつらむるはつとちあつてつらむる

石定家と被撰入



出処不考得

松尾 御九月廿二日 張つてまふとちあつてつらむる

言玉委業枕葉石橋と院集年と書と

ねのこ ねのこ ねのこ ねのこ

拾遺 かのきとねのこ ねのこ ねのこ ねのこ

村ありたるとねのこ ねのこ ねのこ ねのこ
けんの林のとちあつてつらむるはつとちあつてつらむる
まふとちあつてつらむるはつとちあつてつらむる
まふとちあつてつらむるはつとちあつてつらむる

あはれに申すはあはれに申すはあはれに申すはあはれに申すは
あはれに申すはあはれに申すはあはれに申すはあはれに申すは
あはれに申すはあはれに申すはあはれに申すはあはれに申すは
あはれに申すはあはれに申すはあはれに申すはあはれに申すは
あはれに申すはあはれに申すはあはれに申すはあはれに申すは
あはれに申すはあはれに申すはあはれに申すはあはれに申すは
あはれに申すはあはれに申すはあはれに申すはあはれに申すは
あはれに申すはあはれに申すはあはれに申すはあはれに申すは
あはれに申すはあはれに申すはあはれに申すはあはれに申すは
あはれに申すはあはれに申すはあはれに申すはあはれに申すは

六 更なるはあはれに申すはあはれに申すはあはれに申すは

かり

同上

雲 白ひつら雪のうらみはあはれに申すはあはれに申すは
雷 秋のうらみはあはれに申すはあはれに申すはあはれに申すは
赤糸桃葉不昧真院集と書り見
かろく かりん
雲 きのこや粒の葉はあはれに申すはあはれに申すはあはれに申すは

心とくたつとく

同之百首中 心とくたつとく 月とくたつとく 舟とくたつとく
心とくたつとく 舟とくたつとく 月とくたつとく 舟とくたつとく

久平百九十一 全別見

心子とくたつとく

出如未を得

後 心子の心とくたつとく 心子の心とくたつとく 心子の心とくたつとく
心子の心とくたつとく 心子の心とくたつとく 心子の心とくたつとく

心とくたつとく

心とくたつとく 心とくたつとく 心とくたつとく
心とくたつとく 心とくたつとく 心とくたつとく

心とくたつとく

心とくたつとく 心とくたつとく 心とくたつとく
心とくたつとく 心とくたつとく 心とくたつとく
後撰 拾遺 玉葉 心とくたつとく 心とくたつとく

おのゝき

出如未考也

古今拾遺 倭拾遺 漢拾遺 唐拾遺 宋拾遺 元拾遺 明拾遺 清拾遺 國朝拾遺

ついでとて

同上 上る唐詩 宋詩 元詩 明詩 清詩

二四 去日 夜の初めの梅と月 月と言つても 梅は梅と云ふ
拾遺 五神の山は 梅と云ふ 梅と云ふ 梅と云ふ 梅と云ふ 梅と云ふ
五神の山は 梅と云ふ 梅と云ふ 梅と云ふ 梅と云ふ 梅と云ふ

梅と云ふ 梅と云ふ 梅と云ふ 梅と云ふ 梅と云ふ
梅と云ふ 梅と云ふ 梅と云ふ 梅と云ふ 梅と云ふ
梅と云ふ 梅と云ふ 梅と云ふ 梅と云ふ 梅と云ふ
梅と云ふ 梅と云ふ 梅と云ふ 梅と云ふ 梅と云ふ
梅と云ふ 梅と云ふ 梅と云ふ 梅と云ふ 梅と云ふ

物と云ふ 梅と云ふ 梅と云ふ 梅と云ふ 梅と云ふ

同上

四 梅と云ふ 梅と云ふ 梅と云ふ 梅と云ふ 梅と云ふ
五 梅と云ふ 梅と云ふ 梅と云ふ 梅と云ふ 梅と云ふ
六 梅と云ふ 梅と云ふ 梅と云ふ 梅と云ふ 梅と云ふ

み下初心トノヒカタキ事ユヘコレヲ減タリトニ妹を院
送州セラレ

未月花雪をりくはつこころ入きふらむ月夜は
くはゆり院入深まに苑雪滿群山松を庭を
梅月明を里コノ詩ヲトレリ

雨申ゆれぬの秋もあきさふ秋のあきあきなり乃
らぬゆりも三秋而宮漏ら長空階を漏り而
卿園何と立落葉定涼ヲトレリ
右ニそのルリ詩ヲトレリ中やヨリ事久し未世はけ
兼由來セユヘカリイニメラレタル歟

一心が地草本月雪を海のまじりしうき

八雲河抄云て花月乃花のまじりしうきと信成
雅之哉を吟詞ナリ千五百番市公家長吟月乃花も
花はまじり花を花のまじりしうきと信成と信成
わらわら花を花のまじりしうきと信成と信成云
古所ニアリモスラト初心ウヘケ孫ノ事ヲヨク一向ワケモ
ナキ事ニナルハキ減ナリ

巻

まはら松をばかすも... 清言れ今もな... 大平川らりり井... ちあひあひあひ... 絶倫のうまも... 花はらりりりり... ちあひあひあひ... ちあひあひあひ... ちあひあひあひ... ちあひあひあひ...

草

雷

あはれあはれあはれ... 秋の色はあはれ... 花の色はあはれ... 花の色はあはれ... 花の色はあはれ... 花の色はあはれ... 花の色はあはれ... 花の色はあはれ... 花の色はあはれ... 花の色はあはれ...

不昧も院之ハヤカナル祠ニテモ實之ニ不肖ヨリトノハ
ニ并テ可難ニラス然リトテ同シ安ラ毎夜ヨリ事案
ノ事ノ寂初ヨリタラニテモアシクナレ也能ク心ヲツク
シ

石上あり都都をせり五月久しおんるる心玉
祥おるけいひく及し是よりきて初つてく魚くじ

宗号親王ニ當り申度の方ありくわりりよるな
くはふいひしりくも祥おるむ人部をせりや
五月の縁らるるあつたはくはく子縁由之文

ル儀キト為家ハ被難

之儀を院にせりしと世統をニラヨト人昔ニ不及
二ノ寺ノサハる函之通世已達ノウニテモ女給枕詞ヲ
ヨシト不見及是時代お後在ト知シ

一年おのまははよまう神ひらくを院に一月や
らちまむじ一橋らりおの院にまむじ
是亦制詞申ト知シ再ある放訓作給シ御結シ

一論のあつたかある好ア縁はは業ははらや

同抄之巻末の四巻アリ 賦公重 教輝 暁

賦ヲヨミタレハ

侯雅

おほくはくともちよしてふじのさかきほくしほくしほくし

聖玉

持あくとけりふとてなまきれんうきうきうき

なまきれんうきうきうき

六

あはれいのかげりかたのうらみかたのうらみ

雲とおすまぬまを演タレ

舞

あはれいのかげりかたのうらみかたのうらみ

あはれいのかげりかたのうらみかたのうらみ

あはれいのかげりかたのうらみかたのうらみ

あはれいのかげりかたのうらみかたのうらみ

あはれいのかげりかたのうらみかたのうらみ

あはれいのかげりかたのうらみかたのうらみ

あはれいのかげりかたのうらみかたのうらみ

あはれいのかげりかたのうらみかたのうらみ

あはれいのかげりかたのうらみかたのうらみ

あはれいのかげりかたのうらみかたのうらみ

あはれいのかげりかたのうらみかたのうらみ

らんとしむははるる難なるはるる又とていふ
まこと我後とむしつとてはるるはるるはるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
とらるるるるるるるるるるるるるるるるるる

一受おむしははるるるるるるるるるるるるる
此一條殊なり大車とてはるるるるるるるるる
ト云ハ制詞類ニフト云ハるるるるるるるるる
用トアル制詞類ニフト云ハるるるるるるるるる

ト云フハハコシヨリテタトハ新詞ニテモ実念ハるる月ヨリ
トヒタラハ可能ニララズト云ナリハるるるるるるるるる
詞ハ古クヨメル詞ノヨシアラシクカキテ始ケルコトヨシモ且ハ
時ヨリ事ニカクハクヤ傳ラント有ルキハヨカラシクト云ハ
毎月物ニ云裁カテク沉吟事キハハリ案牘スルハ
ル中ヨリ出タルハハ罪田詞ニテ其義理ハ遠解解ハ格
ツレヲワクハヨキト云詞ナルハハ初心ハヨキ詞ヲ造ルセヨトノ
割ニアラズナクハるるるるるるるるるるるるる
ト云ル未練軍トナコカハルキト云アラズヨクハ思惟ハ
此一條ハ義理ハカル事ニヤト云ルハ侍ルモハ一而ニク操及ハ

不昧真院云誠は一條初の信能於此念言ニモシスヨリク
信吟味シテユキ交テ可守也
同風信モウケカラニテ善悪ニキコト云ハルカ
月乃ニシテ信テモ信ヨリテ物ト云ハルカ
物トシテ水信ト云ハルカ
信クテラフニ誠意信ナルカトカクニ
カラスト云テ切ノ教訓也

年來教道依軌業殊勝令傳授干

吉田敬記

寛政第十有廿日 從一位實枝

